

# ART KISS LETTER Vol. 72

2015初夏



庵野秀明さん、樋口真嗣さん、三池敏夫さんと、  
ゴジラスーツ(『ゴジラVSデストロイア』[1995]TM& © TOHO CO.,LTD.)



## 巻頭言

### 現代美術館で特撮を見る

2015年になって九州では、まず1月に福岡市美術館でウルトラマンを生み出した成田亨の「美術／特撮／怪獣」展が、春には熊本県立美術館で原画を主体とした「エヴァンゲリオン展」が開催。この流れの中で4月から熊本市現代美術館で、ゴジラやウルトラマンのスーツ、ミニチュア等約500点が展示される「館長 庵野秀明 特撮博物館 ミニチュアで見ると昭和の技」展が開始されました。いずれもおびただしい出品作品が並ぶ重量級の展覧会で、人間の想像力と手わざが生み出した強力な物質感を放っています。またこの5月には、宮崎県のみやざきアートセンターで「ゴジラと特撮美術の世界展」が開催され、今やコンピュータ技術によって失われかけている職人的技術や、作品のもつアートの価値に新たな光が与えられ、国際的にも評価の高い特撮が、大きなうねりとなって再浮上しているのです。

もともとこの展覧会は、東京都現代美術館で開催され人気を得たものです。博物館はすぐれた遺産を、最善の状態の後世のために大切に残す場所であり、一方美術館は、とりわけ現代美術館は大きく変化する世の中で、想像力を刺激し、新しい創造性を促し、新たな芸術文化を生み出す拠点となることです。この点で特撮展が現代美術館で開催される意味があります。ここには現代美術館にすっぽり博物館が入ってきた面白さがあります。

この特撮には、様々な分野の腕利き職人が関わり、完成した映像の背後に手作業による徹底したアナログの世界があります。本展では、映像やミニチュア、デザイン画などの資料約500点を展示、特撮を担ってきた作り手たちの技と魂を伝えています。ゴジラ、ガメラ、ウルトラマン等々は、時代のアイコンであり、この展覧会は、見る者のイマジネーションを刺激し、未来の新たな創造性につながっていくことでしょう。

熊本市現代美術館館長 桜井武

## 詩の朗読会

くまもと詩の朗読の会共催の自作の詩の朗読会です

### 詩の朗読会 第135回

#### テーマ「羊(未)」



2015.2.26

今回のテーマは、2015年の干支である「羊(未)」です。10名の方が参加し、のべ14作品が発表されました。羊から連想される色や

形に、日々の生活を重ね合せながら詠む作品が多くありました。羊毛のふわふわとした触感やクリーム色の優しい色が、柔らかな空気を纏った居心地の良さを感じさせてくれるものもあれば、終わりのない幻想の世界を彷徨うような不気味さを持ったものもありました。羊と人の深い関わりを想いを馳せながら、この1年がふわりと優しく包まれていくように感じました。(N・H)

【参加人数10名】

### 詩の朗読会 第136回

#### テーマ「春の花」

飛び入り参加4名を含む10名の方に自作の詩をご披露いただきました。草花にまつわる思い出や、そこから湧き上がるイメージを詩にしたものなど、様々な角度から詩作されていました。また、独創的な世界観を持った方や、鹿児島からはるお越しくださった方など、初参加の方の意欲的な姿勢も伝わってきました。ほんのり春を感じる詩が多く、様々な花の名前が登場した会場は花畑のようでした。(K・O)

【参加人数13人】

### 詩の朗読会 第137回

#### テーマ「仮面」



2015.4.23

ヴェネツィアの仮面や縄文時代のアニミズム的な仮面などは、実際に顔につけてカーニバルや儀式に使われますが、一方では「仮面をかぶる」などと比喩的に表現されることも

もある仮面。顔の一部または全部が隠れて表情がわからないため、楽しそうにしているピエロも、どこか影があると感ずる……といったことはありませんか。今回の朗読会では「本当の自分」と「他人と対峙した時の自分」を比較して、比喩的に「仮面をかぶる」時の自分の心情を表現した内容が多くありました。「どこまでが あなたの嘘か 私の嘘か 春霞して」と自作歌を詠んだ方がいましたが、「私」の内面と外面だけでなく、「あなた」までもが混然一体となった様を、おぼろげな春霞と共に表現されていました。

実は、自分の内面と外面の境界はいまいで、普段自分だと思っている部分の一体どこまでが本当の自分なのか、とはっとさせられる、なんとも幻想的で印象的な朗読会でした。(H・Ts)

【参加人数18人】

## 月曜ロードショー上映報告

毎週月曜日14時・18時より 無料 定員90名

### 上映リスト(2/9~4/25)

2月9日	「12時間・ダブル・ターゲット」	2011年	イギリス映画	84分
2月16日	「国家の女リトルローズ」	2010年	ポランド映画	118分
2月23日	「ケロック博士」	1994年	アメリカ映画	120分
3月2日	「キートンの決死隊」	1930年	アメリカ映画	80分
3月9日	「キートンの恋愛指南番」	1931年	アメリカ映画	73分
3月16日	「キートンの紐育の歩道」	1931年	アメリカ映画	74分
3月23日	「キートンの決闘狂」	1932年	アメリカ映画	74分
3月30日	「キートンの麦酒王」	1933年	アメリカ映画	65分
4月6日	「ジャックと天空の巨人」	2008年	アメリカ映画	94分
4月13日	「コンングの復讐」	1933年	アメリカ映画	70分
4月20日	「雀」	1926年	アメリカ映画	81分

## ホームギャラリーからのお便り

ホームギャラリーからおすすめの一冊をご紹介します。

### VOL.25

#### 『お菓子作りのなぜ?がわかる本』



著者:相原一吉  
出版:文化出版局 2001年

皆さんは、お菓子が出来上がっていくその瞬間に立ち会ったことはありませんか? 刻々と変化していく色、形、部屋中が甘く香ばしい香りに包まれて、ふくらとケーキが焼きあがってきたときの幸福感は、買ったきたケーキの箱を開ける瞬間のそれに勝るとも劣りません。素人のお菓子作りでも、この幸せな瞬間に、そしてみんなの美味しい笑顔にまで確実につなげてくれる、すてきな一冊をご紹介します。

そもそも、膨張剤が入っていないのに、なぜスポンジケーキやシューは膨らむのか、膨らむ理由が分かれば、なぜ膨らまないかが分かってきます。本書は、その理由を分かりやすく説明したうえで、膨らませる「手段」を教えてくださいます。それは決してプロが使うような特殊な材料や道具に頼るものではありません。スーパーで買える材料で、家庭にある使い慣れた道具で、ちゃんと美味しいお菓子が作れるように……。あくまで技術によって家庭のお菓子を昇華させていく、著者・相原一吉さんのこだわりが随所に感じられます。

また本書は写真がとて美しく、手に取って眺めるだけでも十分に満足できる一冊です。

ケーキ屋さんのショーウィンドウを飾る煌びやかなお菓子の美しさとは違う、素朴で温かみのある家庭のお菓子ならではの美しさを、その周りに漂う幸福感と一緒に写し取ったような、素敵な写真が使われています。

お菓子を作る方も、そうでない方も、ぜひ一度ページをめくってみてください。長年の「?」が「!」に変わったか、その科学的な理論に思わず読み込んでしまったり、時を忘れて楽しめることでしょう。(Y・K)

**CAMKEESの活動**  
美術館が「メディアCAMKEESのキャンキース」による活動紹介

**テーマ「ともだち」**

CAMK読みがたり第67回



2015.3.14

今回は、絵本『フンタンぶらんこのせて』『こぶたいたらいいな』『もりのおふろ』などを紹介しました。『もりのおふろ』では、大きなお風呂のまわりで動物たちが大きな輪になって背中を流し合う場面があり、『こぶたいたらいいな』と子どもたちも声をそろえて物語に入り込んでいました。また、紙芝居『やさしいおともだち』は、ネズミたちが火事になった馬小屋から、馬を救出するお話。燃え盛る炎に負けず必死で友達を守ろうとする小さな姿を、子どもも大人も緊張して見守っていました。(K・O)

【参加人数29人】

**テーマ「春がきた」**

CAMK読みがたり第68回



2015.4.18

春といえば出会いの季節ですが、この季節にふさわしく絵本『はじめまして』『どうぞ、これからよろしくね』と、お互いにご挨拶をかわします。絵本『はらぺこあおむし』『紙芝居』き

りんちゃんのおさんぽ、そして詩『くまさん』では野原からくまさんがひょっこり顔を出したりと、たくさん動物たちが登場し、春のおとずれを感じさせてくれました。赤ちゃんだけでなく大人もびっくりしたのが、折り紙で作った「たんぼぼ」。一見普通の折り紙ですが、空中に向かって飛ばしてみると、綿毛がぐるぐるとうるような仕組みになっていて、歓声があがりました。また、開催中の「特撮博物館」展にあわせて、手遊び「ウルトラマンの歌」も紹介。二丁目のウルトラマン、三丁目はゼン...と子どもたちは体を大きく動かして楽しんでいました。(H・Ts)

【参加人数10人】

**ミュージック・ウエーブ**  
展覧会や季節にあわせたコンサートを開催しています

**「大道芸2015」  
ヨルノダイドウゲイ**

2015.3.14

熊本市中心街地で2日間に渡り開催された「大道芸2015」。現代美術館も会場の一つとなり、1日目はアーティストのレインボー岡山さんによるワークショップ「虹になろう！」を開催しました。当日は虹になるべく、偶然にも虹の色と同じ7組の家族にご参加いただきました。ワークショップは、まず「虹のぼんぼん作り」からスタート。



「大道芸2015」の2日目は、「紙芝居屋ぐれつち」と「サムタクんとメロンちゃん」によるショーをお届けしました。ぐれつちさんは、シルエットくいと「どんぐりおばけ」の紙芝居を披露してくれました。おばあさんが間違っって食べてしまうくらいとても小さな「どんぐりおばけ」ですが、おばけはやつぱり怖い...泣き出してしまってお友だちもいました。シルエットくいと正解した人には、ぐれつちさんからプレゼントも。

クラウンのサムタクんとメロンちゃんでは、コミカルなパフォーマンスに会場は大盛り上がり！お客さんを巻き込んでの楽しいショーに、最後は、魔法の粉をかけるお手につけていたティッシュペーパーが消えてしまうマジックをみんなに教えてもらいました。(Y・M)

7色のビニール紐をリボン状にまとめ、一つずつを細かく裂いていき両腕の飾りが出来る。次はカラフルな「虹」の絵をフェイスペインティング。最後は、それぞれの家族ごとに色分けされた7色のマントと風船を取り付け完成です！パレードでは、レインボー岡山さんの大きなマントを皆で囲んで持ち、各地から集まった大道芸人の皆さんと下通アーケードを練り歩きました。七色のキレイな虹がアーケードを賑わせました。(Y・M)

【参加人数19人】

**「大道芸2015」  
ヨルノダイドウゲイ**

2015.3.15



障がいのある人もない人も、音楽の力で「心のバリアフリー」を目指すとつておきの音楽祭が開かれました。9か所ある会場のうち、当館ホールでは13組のグループが合唱や様々な楽器の演奏を披露しました。グループによっては、来場者の方々と一緒に歌う場面も。手話を使って披露された出演者のオリジナル曲では、まっすぐな歌声と過去の自分に向けた歌詞の内容に心を打たれました。音楽の楽しさを会場が一体となって感じる会となりました。(Y・M)



2015.3.22

**とつておきの音楽祭**

第6回オハイエくまもと

【参加人数1000人】

障がいのある人もない人も、音楽の力で「心のバリアフリー」を目指すとつておきの音楽祭が開かれました。9か所ある会場のうち、当館ホールでは13組のグループが合唱や様々な楽器の演奏を披露しました。グループによっては、来場者の方々と一緒に歌う場面も。手話を使って披露された出演者のオリジナル曲では、まっすぐな歌声と過去の自分に向けた歌詞の内容に心を打たれました。音楽の楽しさを会場が一体となって感じる会となりました。(Y・M)

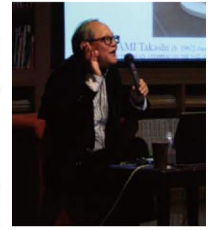
【参加人数1000人】



「第26回熊本市市民美術展 熊本アートパレード」

熊本アートパレード

三瀧末雄審査員講演会



「第26回 熊本アートパレード」の審査員・三瀧末雄さんの講演会を開催しました。今年のアートパレードは、「私の中の日本、世界の中の日本」をテーマにたくさんの方が集まりました。講演会では、入賞作品についてのお話や世界の様々なアートフェスティバル、アートフェア、自身がオーナーを務めるミツマアトギャラリーについてなど、世界を舞台に活躍されている三瀧さんならではの興味深く、かつ情熱にあふれたお話を聴くことができました。

2015.2.21

オーディエンス賞決定

熊本アートパレード

「第26回 熊本アートパレード」のオーディエンス賞が決定しました。2月21日(土)から27日(金)までの期間、来場者の皆さんから投票をいただいた結果、見事オーディエンス賞に輝いた作品は、平面部門(洋画)にご出品された平井敬一さんの《名峰―富士》でした。



2015.3.1

雲海の中の富士山を描いた本作。その美しい構図・色彩に多くの方が心動かされたようです。(G・S)

「熊本の華人展」

熊本の華人展 Vol.10

熊本市現代美術館の春の祭典「熊本の華人展」が開催されました。今年で10回目を迎える華人展、今回はテーマを「おもちゃ箱」とし、今まで開催してきたCAMKコラボレーションコーナーを全部詰め込んで、まさにおもちゃ箱のような空間にしてみました。また、全国でも有数の花卉生産地でもある熊本が誇る花々(カスミノウ、アリアム、トルコキキョウ、カーネーション、バラ)は大作席で生けていただき、迫力満点!2回目となる陶芸作家とのコラボレーションコーナーも見ごたえのある花が並び、来館者の皆さんにも楽しんでいただけたようです。(E・Z)



2015.前期3.13-15 後期3.20-22

G III

ギャラリーⅢ(G III)は、熊本・九州のアーティストを紹介し、応援していくスペースです

G III Vol.101  
Flowers-熊本市現代美術館  
コレクションより



宮井正樹《Flowers》2006-2008 2015.2.14-3.27

ギャラリーⅢの101回目の展示となる今回は、会期中にギャラリーⅠ・Ⅱで開催されていた「熊本の華人展Vol.10」にちなみ、「Flowers」と題して、コレクションより井手宣通、中島千波、瀧下和之、宮井正樹の作品21点を紹介しました。桜を中心とした花々が、油彩、日本画、アクリル画、写真と様々なアプローチで表現され、観る人の目を楽しませていました。(A・S)

G III Vol.102  
熊本市民現代美術館コレクション展  
「自然／抽象」

2015.3.29-5.10

102回目の展示となる今回は、「自然／抽象」をテーマに、コレクションより15名うち11名は熊本県出身の作家の作品を紹介しました。

「自然」をテーマにしたセクションでは、写真、絵画、彫刻などを通じて、熊本の自然の刻々と変化する表情、その本質的な豊かさに感銘を受けた作家たちが、それぞれの表現でその喜びをかたちに残そうとした作品をご紹介しました。「抽象」をテーマにしたセクションでは、「家族」「友人」と共に刻む時間をテーマにした林浩「人」と「法」という人間の普遍的な営為を問う神野大光「舐める」という行為を繰り返す行こうことで

AKL PHOTO PICK UP



「舐めなろう!」ワークショップ(詳しくは3ページをご覧ください)

「舐める」という行為の多様な意味を観る者に想像させるエネ・リス・ゼンパーの作品などを展示しました。

本展が、熊本の自然の在り様、我々が培ってきた自然観や自然の摂理、人間の本質的な在り方や行為について、感じ、考えていただくきっかけとなれば幸いです。(A・A)



庵野館長は、学生時代に  
自作の特撮映画を  
撮ったことがあるそうです！



## MUSEUM INFORMATION

「館長庵野秀明 特撮博物館 ミニチュアで見える昭和平成の技」展

館長庵野秀明 特撮博物館

### 開会式・内覧会

2015.4.10

「館長庵野秀明 特撮博物館 ミニチュアで見える昭和平成の技」展の開会式・内覧会が開催されました。庵野秀明映画監督・プロデューサー、樋口真嗣監督ほか数多くの



ゴジラスーツ (TM& © TOHO CO.,LTD.)

熊本展会場内は、500点を超える貴重な作品・資料が出品されていますが、本展初公開の作品もいくつか出品されています。円谷英二監督の最後の監督作品、映画「日本海大海戦」に実際に使われた全長6mの戦艦「三笠」ほか、輸送艦駆逐艦もそろって登場！「キャプテンウルトラ」の「シユビゲル号」も見逃せません。熊本が特撮展最終会場です。ぜひこの機会に、特撮の魅力をご体験ください。体験会は、4月11日(土)より6月28日(日)までの開催です。(H・I)

館長庵野秀明 特撮博物館

### 記念講演「特撮博物館を語る」

2015.4.11



展覧会初日のイベントとして、記念講演「特撮博物館を語る」を開催しました。会場は、事前申し込みの抽選で当選された約300名の皆様(中継室含む)のわくわく感と静かな熱気に包まれました。

登壇は、庵野秀明映画監督・プロデューサー、樋口真嗣映画監督、三池敏夫美術・特撮監督(特撮研究所取締役)。3名による鼎談として行われました。

講演会は司会進行からの質問形式で行われ、8つの質問のあと、会場の参加者からの質問を受け付けました。

特撮博物館を東京で初めて立ち上げた時の思いとしては、次のようにお話くださいました。

庵野：自分を育ててくれた特撮に対する恩返しが出来たかなと感無量です。(談)

三池：このタイミングでやらないと、技術もモノも失われてしまう。自分たちの業界ではなく、ジブリや庵野さんなどアニメーションの方々の方で出来たんですが、うれしいなと思いました。熊本で出来て光栄です。特撮を語るという立場でこのような場に出る機会が増えました。(談)(筆者注：三池さんは熊本出身です)

樋口：自分が本当に好きなものは何だったかと振り返る機会となりました。実際にモノを撮って撮影したほうがいいんじゃないかななどと、映画を撮るときに配慮するよう

### 川内倫子×熊本コラボレーション「あなたの熊本、わたしたちの時代」第2期撮影

2015.3.31

川内倫子×熊本コラボレーション「あなたの熊本、わたしたちの時代」の撮影(2回目)が行われました。

今回は、第2期の公募が集まったエピソードを中心に、水前寺公園や市内各所で6件



になりました。(談)

また、会場からは、2016年公開予定の映画「ゴジラ」への期待や、樋口監督への質問「映画で破壊してみたい建物はなんですか?」「樋口「熊本城ですね!」など、特撮への愛にあふれた「さすが!」という質問が次々と発せられました。

アンケートには、庵野監督がトーク中に発した「技術は、人を感心させるけど、感動はさせなかった」という言葉に感銘を受けたという感想が記されていました。(H・I)

【参加人数300人】  
館長庵野秀明 特撮博物館

### プレマ&ファミリーツアー

2015.4.25

特撮展の「プレマ&ファミリーツアー」を開催しました。今回のツアーには5組のご家族が参加。

特に男の子は、天井にかかったウルトラマンに大はしゃぎでしたが、今回は何より、ツアーに積極的なお父さんの姿が目を引き

の撮影が行われました。満開の桜の時期と見事に重なり、お花見の賑わいと一緒、春のうららかなさを感じる撮影となりました。しかし、いざ作品を撮り始めると、作品中に桜が入る事によって季節感が主張するので、エピソードに沿わないという一面も出てきました。カメラのシャッターを切りながら、静かにイメージを膨らませていく川内さん。レンズ越しに被写体と向き合う姿や、纏う空気はとても静かなものでした。川内さんが捉える一瞬間に次々とシャッターが切られていきますが、何よりも投稿者の思い出のピースがしっかりとハマるように撮影を行う姿に、自然と投稿者の思い出を共有する面白さがあり、熊本人のための「くまもと」が作られていくような嬉しさがありました。(N・H)

ました。会場の最後では、実際にミニチュアセットに入つての写真撮影。家族皆で思いのポーズで楽しまれていました。(A・S)

【参加人数16人】



街なか子育てひろば

子どもたちのためのイベントを開催しています

2015.2.19



2月の子育てひろばのワークショップとして「親子ふれあい遊びとパネルシアター」を開催しました。初めは、かわいい手袋人形が登場し、皆で「ひげじいさん」、「おこのパンツ」などの手遊びをして楽しみました。そして、パネルシアターではお母さんたちもチャレンジ！ヒヨコが果物を食べると、マジックのように体の色が変わっていくパネルシアターに子どもたちはびっくりした様子でした。他にも、工夫が凝らされたいろんなパネルシアターを鑑賞したり、エリックカールの絵本「できるかな？」を使って音楽に合わせて体を動かしたりと、盛りだくさんの内容でお友だちや親子でふれあいました。帰りには、折り紙で出来た肥後棒のお土産もありました。(Y・M)

【参加人数30人】

街なか子育てひろばイベント  
親子で作る  
フラワーアレンジメント

2015.3.12



3月の子育てひろばワークショップ「親子でつくるフラワーアレンジメント」が開催されました。季節にぴったりのマーガレットやスイートピー、ブルースリースフラワー等、7種類の花々を、小さな子供の手には大きすぎる花ばさみで、すこし短めに切っていきます。お母さんにお花を渡さないくらい熱心な子どもいれば、敷いてある新聞紙に夢中になってしまう子ども。お母さんたちは皆さん熱心に先生の話を聞きながら作られていました。同じ花材や花器でも、それぞれの個性あふれる作品が完成しました！皆さんおうちのどこに飾られたのでしょうか。一足先に春の訪れを感じる事のできるワークショップになりました。(H・F)

【参加人数8人】

街なか子育てひろばイベント  
おはなし会と親子あそび

2015.4.24

4月の子育てひろばワークショップは、「おはなし会と親子あそび」を開催



【参加人数31人】

しました。講師は、CAMK読みがたりでおなじみの「おはなしポットさん」。当日は、新緑の映える小春日和に子どもたちは元気いっぱい。布絵本「いないいないばあ」は、布製のページをめくるたびに「いないいない、ばあ！」という掛け声が楽しく、物語が終わると「もう1回」とアンコールする子どもも。また、シフォン遊びでは、呪文のような歌に合わせて少しずつ袋の中からシフォンを引き出し、ふわっと空中に投げると、子どもたちは立ち上がって喜んでいました。手袋人形や、手あそび歌、布絵本、親子遊びなど家庭でも楽しめる内容のものがたくさん紹介されました。特にお子さんと直接触れ合える親子遊びは、子育て中のお父さん、お母さんも一緒に楽しんでました。(K・O)

編集後記



今回はWorld Newsで上海のアートシーンを紹介させてもらいました。実は私は2011年夏から約1年間留学で上海に住んだことがあり、今回はそれ以来約3年ぶりの訪問でした。たつた3年のうちにも上海には新たな施設が次々に誕生しており、それらを観て回るには数日間の滞在ではとても足りないほどでした。今回掲載したのは非常にざっくりとした報告ですが、また機会を見つけて、具体的な作家や作品も挙げつつ詳しくご紹介したいと思っています。

編集長 佐々木玄太郎

AKLの編集後記を書くようになって、今までほとんど読むことの無かった、雑誌やフリーペーパーの編集後記を読むようになりました。ちょっとした記事でも、編集の裏話を知って読み返すと、その先に執筆者の心が見えてより内容を楽しめると知りました。当館の展示会も実際にイベントに参加することで、その感動は何倍にも膨らみます！本紙では美術館で行った様々なイベントをご紹介しますが、記事を通して「次は参加したい！」と思っ

て頂けるような紙面づくりをしていきたいです。

担当 大田黒翔代

Visitor's letter

アンケートに寄せられた感想(抜粋)を紹介します

熊本アートパレード

・市民なら誰でも参加できる展覧会、素敵でした。友人や仲間をさそって展示、鑑賞できるスタイルがとてもオープンでいいなと感じます。私の地元にもあるといいなと思いました。(県外 50代)

熊本の華人展

・現代華が多く見られて感覚的にも大変刺激を受けました。(市外 70代)

館長庵野秀明 特撮博物館

・とても面白かったです!!特撮にはほとんど興味がありませんでしたが、巨神兵の映画では、画面に映るリアルな非日常の世界にドキドキせずにはいられませんでした!制作の裏側や、本物のミニチュアを見ることができてとてもうれしかったです。(市内 20代)

ART KISS LETTER アートキッスレター  
vol.72初夏号(2015年6月) 【無料】  
発行人: 桜井武  
編集: 佐々木玄太郎 大田黒翔代  
デザイン: 石井克昌(MOTOSHIKI)  
印刷: シモタ印刷  
発行: 熊本市現代美術館  
http://www.cank.or.jp

〒860-0845  
熊本市中央区上通町2-3  
電話 096-278-7500  
ファクス 096-359-7892

【次号は盛夏号(8月発行予定)】

# ART DE GYAN

アート・どぎゃん。

\*熊本弁でアートはどのような？という意味です

## 第16回 洛神書作展

アートスペース大宝堂

熊本県熊本市中央区上通町5-6

TEL 096・354・2155

2015.3.4-9

## 第34回 尚綱大学・卒業書作展

熊本県立美術館・分館 展示室3

熊本市中央区千葉城2-18

TEL 096・351・8411

2015.2.3-8



尚綱大学書道コース第19期生の卒業制作展である。今年のテーマは「鑽」であった。3年間の講義、部活、合宿等で取り組んだ

研鑽を基礎に、卒業作品にはほぼ1年間をかけて熱い思いを注ぎ込んでいるので力作が揃っていて、観て楽しい。13名が、古典の臨書1点と創作2点の各3点を出品していたが、この展覧会の大きな特徴は、各人が少なくとも1点は「超大作」を発表するということである。中央の独立展などで超大作を見ることはあるが、地方では珍しい超大作が並んで壮観である。若さが漲っている会場の雰囲気は気持ちが良いものである。願わくは、彼女らが卒業後も好きな勉強を続ける環境に恵まれんことを。(T・M)



森山淡草(元熊大教授)さんが指導した生徒や弟子のグループ40名の書作展で隔年に開催している。書風や書体も多様に変化に富む作品群となつ

ていた。森山淡草さんは「墨緑」を篆書体で軽妙なタツチで見せている。御城貴志さんの詞は、詩文としてわかり易く筆さばきのうまい作となつていた。緒方龍生さんは蘇軾詩の隸書体を自由な運筆で端正に見せていた。浅野千穂さんの一行書の軸は潤濁の変化をつけ、伸びやかな作となつていた。早崎千穂さんの「怨」(おもしろい)の大字、篆書も伸びやかな筆さばきであり、そえたことはもわかり易くうまくまとめていた。会場は漢字作品が多いが、伸びやかでよく練られた跡が見られ、楽しく明るい雰囲気満ちていた。(S・K)

## 森方信書作展

熊本県立美術館・分館 キヤロリ

熊本市中央区千葉城2-18

TEL 096・351・8411

2015.3.10-15

嘗て尚綱大学書道コースで学んだ森方信さんが約30点を並べた個展である。森



さんも頑張っておられたが、この展覧会で注目すべきは、並べられた額が全て表具師である野中吉盛さん(植木町)の独自の手作り額であったことである。

もともと桐箆箆職人であった野中さんは、約20年前に表具師に転向。「焼桐」という桐箆職人の匠の技を活かした額作りで熱中してきた。最近はずっとカットした大島紬を巧みに編み込んだ「ハヤノ織」を編み出して、焼桐の縁に焼桐の格子、これにハヤノ織を組み合わせた独自の渋くて格調高い額を創作して注目を集めるようになった。工芸展でも高い評価を受け、とにかく印象に残る展覧会であった。(T・M)

## 陶とオブジェ・野原グループ

熊本県伝統工芸館 地下和室

熊本市中央区千葉場町3-355

TEL 096・324・4930

2015.3.31-4.5



野原グループ オブジェの収集センターと野原陶芸塾による陶とオブジェの展覧会。「地球と共に生きる」をスローガンにした産廃処

理場のスタッフたちのアイデアと技術によって生み出されたオブジェの数々は、どこかユーモラスでありながらその発想力に驚かされた。また尾崎玲子さんから野原陶芸塾の作品も、それらのオブジェに触発されたかのような個性豊かな作品が並び、新しい世界観を感じさせてくれる空間となつていった。(E・Z)

## 第55回 白鷗会書道会展

熊本県立美術館分館

熊本市中央区千葉城2-18

TEL 096・351・8411

2015.4.7-12



白鷗会は県下のかんな書道研究で最大の団体である。熊本、福岡、佐賀、東京から会員172名が約230点を展示していた。中村天香会長は、屏

風に若山牧水の歌を円形料紙にうまくまとめるという新しい表現の作品である。那須球石さんは、紀貫之の歌を手なれたうまさで書かれていた。神奈川県柴田多計子さんは、大字かなのダイナミックな力強い用筆で3×8尺に書いていた。東京の又木白雲さんは、松尾芭蕉の俳句を上品で変化に富む線で見せていた。昨年の日展「かな書道」で、特選を受賞した中村天馨さんは、新古今和歌集の藤原良経の歌4首を二曲屏風に素朴な線でうまく書き、表装もユニークである。佐賀の浦田瑛雪さん、福岡の谷口君子さん、熊本本の井上精江さん、中村紫さん、井手

## 画集刊行記念 瀧下和之展

鶴屋百貨本店8階美術

熊本市中央区手取本町6-1

TEL 096・327・3064

2015.4.29-5.5

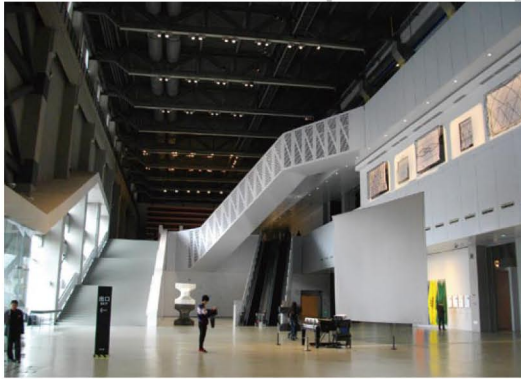


熊本出身の瀧下和之さんの、最新作品集『桃太郎図Ⅱ』の刊行記念の、里帰り展としての展覧会。ライフワークとして続ける「桃太郎図」は700点を越えているがその新作の作品群と、風神雷神シリーズ、龍虎シリーズ、七福神シリーズと展開中のすべてを紹介する内容。構図はリズムカルで、色彩は美しい。そのトーンも多様で、鬼神や鬼達の肌の色は明快だが、背景のグレイトーンは宝石オパールのように複雑である。今回は龍図のボディの複雑な色彩表現に目が行った。輪郭線は「私にでも出来るかも？」と子どもにも思わせるような親しみもあるが、彩色においては抜群の技術と格を感じさせる。(H・T)

美代子さん、藤木世紀子さんの作品が印象に残った。会場入り口の大パネルに「馬」のことは使った短歌、俳句を希望者が扇面に一人一点書いたのも面白い表現だと思った。(S・K)

# WORLD NEWS

## 2015年春 上海アートシーンレポート



巨大な展示空間をもつPSA館内。上海万博ではパビリオンとしても使用された。

2000年代中頃以降、中国人アーティストの作品が一点数億円という単位で取引されるようになるなど、アートバブルに沸いた中国。バブルが落ち着いた現在でも、各都市のアートシーンの勢いは衰えることなく、街とともにめまぐるしい速度で発展を続けている。今回はそのような中国の代表都市の一つとして、上海のアートシーンを紹介したい。

### 第10回上海ビエンナーレ

1996年に始まった上海ビエンナーレ。もともとは上海美術館をメイン会場としたコンパクトな国際展だったが、前回の2012年からPower Station of Art (PSA)という新設の巨大美術館に会場を移し、規模を



大幅に拡大した。PSAはその名称にも表れているが、もともと発電所だった建物を改造して美術館に転用した施設である。その展示面積は実に15万㎡熊本市現代美術館の約9倍！。今回のビエンナーレは「社会工場 (Social Factory)」というタイトルを掲げ、社会とそこで生みだされるもの、社会モラリティの関わりといったテーマの探究が試みられた。PSAでは国内外の作家70名余りの作品が展示されていたが、その中には、社会をテーマにした古今の現代美術の作品はもちろん、『阿Q正伝』の挿絵版画や、資料アーカイブ的なものも組み込まれていた。

作品点数はポリウム満点で、1日いても楽しめる。というよりも、映像作品まで含めると、まともな鑑賞し尽くすのは無理と言った方が適切か。またPSAではビエンナーレの他に若手キュレーターによる特別展示も開催中だったが、こちらも独特かつ濃厚な世界が展開されており、ビエンナーレに劣らず興味深かった。ショッピングモールの展示

上海ビエンナーレはメイン会場のPSAの他、



若手キュレーター展示より 易連<低温>



ビエンナーレより 劉鼎(1999)

街中のショッピングモールなどでもサテライト展示を行っている。それらの作品を目当てに街を歩いていくのもまた楽しい。なおショッピング

モールによつては、そのオーナー自身がアート方面に関心が深く、ビエンナーレの時期に限らず常に施設内で何らかの展示を行っているというところもある。それも展示室のような



専用空間に限らず、ショッピングモールの広場や通路など各所に作品が配置されている。

ショッピングモール「K11」にて。商業施設という空間に合わせて、ポップなオブジェやコミカルな映像など親しみやすいものも多い。また、買い物を楽しんでいれば自然に作品が目に入ってくるのである。

### 私立美術館の増加

近年、上海では美術館が立て続けに新設されている。最近の上海で影響力を増しているのは私立美術館で、中でもとりわけ注目すべきは個人コレクターによつて設立・運営されるそれである。例えば、2012年に開館した「龍美術館」は中国のコレクター夫婦によつて設立された中国でも最大規模のプライベートミュージアムであり、現在は上海市内に浦東館と西岸館の二館を有する。夫婦が20年以上をかけて築いたそのコレクションは質・量ともに強力で、骨董や書画から近現代美術まで洋の東西を



ショッピングモール「ケリーセンター」内のビエンナーレ展示より。



問わず包括的にカバーしているという。視察に訪れた2015年3月初旬、浦東館では延安時代から現在に至るまでの中国のプロパガンダ芸術を一望する大企画展を開催していたが、その展示は全てコレクション作品だけで構成されているというのだから恐ろしい。なおこれらの美術館建設は、万博跡地を巨大文化地区として再利用したいという行政の都市計画とも深く関わっているようである。豊富なギャラリー



龍美術館(浦東館)。

もちろん上海は美術館だけでなくギャラリーにも見逃せないものが数多くある。上海駅近くの「M50」と呼ばれるエリアはもともと紡績工場の跡地だったが、2000年代からアートエヤギャラリーが多数集まり、現在では一種の芸術区となっている。ギャラリーの展示の質は玉石混交だが、老舗の「Shanghai Art gallery」などは地元作家を中心に実力派アーティストが揃っており、毎回見ごたえのある展示を目にすることが出来る。その他、上海のシンボルの一つである外滩(バンド)周辺の近代建築群にも現代美術を扱う有力ギャラリーが点在し、国内外問わず様々な作家を積極的に紹介している。これらを巡ってみれば、街の歴史と現在の上海のアートシーンのエネルギーを同時に肌で感じることが出来るだろう。(G・S)